

## 人格による生き方

ダン・ジャスター

2014年12月26日



御国の福音を理解することは、御国的な生き方へと私たちを導きます。

マタイの福音書は、イエシュア(イエス様)の命令とを関連づけるうえでとても役に立つのです。マタイ 28:19-20 はこう記しています「それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子となさい。...バプテスマを授け、また、わたしがあなたがたに命じておいたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい。」

イエシュアの命令は人格評価の基礎であり、また人格形成のための方法なのです。私たちは、私たちを変革に導いてくれる恵みによって(ぶどうの木に繋がっていること--ヨハネ 15 章)、主の命令に従うことで成長することができるのです。このことは、肉の事柄がともに掛けられているところの主の十字架を認識することも含まれています。復活のちからは、私たちが従順であるためにも、常に聖霊さまに満たされているためにも非常に重要です。

マタイ 5~7 章のイエシュアの教えはトラ(律法)をどのように適用するかということも示しています。「まことに、あなたがたに告げます。もしあなたがたの義が、律法学者やパリサイ人の義にまさるものでないなら、あなたがたは決して天の御国に、入れません。」信じる者はどのようにすれば、このことを手にすることができるのでしょうか？それは主のちからと恵みによってのみ可能なのです。

人格とは私たちの生き方の証人の 1 人です。トラはこころの問題に対して適用されます。信者とは殺人の罪を犯さないだけでなく、怒りや憎しみをこころに残さない人であり、敵を愛し、彼らのために祈り、良いことをします。不品行を行わないだけでなく、彼らのこころに情欲が入らないように、さらに高い命令に従います。自分の正しさを証明するために「誓い」を立てません。イエシュアの信者は、全く正直であり、主の御ことばを実行します。

欧米の教会では、自己に死ぬということの基盤であるところの人格への召命は、あまり教えられていません。人格は、人をしてその人生における重要な契約(結婚、友人関係や地域社会での生活といったもの)を全うさせます。御国の人格において成長過程にある人々は、さらに深くお互いに愛しあうということを学びます。神様にある人格は、神の御国の大黒柱なのです。

## 走って仕える

アシェル・イントレータ

私たちの父祖たち(およびその娘たち)の人格的な質として見ることは、彼らが即座に行動していたということです。機会があるときにはいつでも、もてなしたり、汚いと思えるような仕事を仕えました。彼らは仕える準備ができていただけでなく、「走って来て」仕えたのです。アブラハムは、彼の元を訪れた、御使い=YHVH(神そのものであるところの御使い)に仕えるため、アブラハムは走って行き、レベカ(リヴカ)はアブラハムのしもべに仕えるために走って行き、全ての駱駝に水も与えました(創世記 24)。これら2つの出来事はどちらも砂漠の太陽が照りつける日中におこりました。彼らは全て、暑さの中、埃と汗にまみれ、疲れ、力尽きていました。それでも彼らは、彼らのこころにある愛と信仰を示すことを望み、霊的に動機付けられたたちからによって飛び上がって、走っていったのです。

## 性的清さにあって歩む—第1の鍵



この4回シリーズの2回目、コーディ・アーチャーは、神さまとの親密さが、性的清さにあって歩むための第一の鍵だと語っています。私たち自身に定期的に神さまの御ことばに触れ、礼拝と異言で祈り、断食することで神さまのより近いところで成長でき、また私たちは罪を拒絶する力を獲得し、勝利の内に歩んで行きます。ご覧になるには[こちら](#)をクリックください。

## アハヴァット・イエシュアの新しい家

エディ・サントロ



アハヴァット・イエシュア Congrégation は新しい場所へ引越します。今迄の場所で私たちは祝福され、成果を産んで来ました。子供のいる家族が増加したことで、現在の設備ではキッズプログラム用のスペースがとても制限されています。

新しい場所はエルサレムの中心部にあり、クリスチャン団体が所有するもので、私たちのメシアニック姉妹 Congrégation と共にシェアします。キッズ用のエリアと集会ホールはリフォームし、Congrégation の家にスペース的余裕をもたらします。

私たちの Congrégation は皆様の忠実なサポートで祝福されて来ました。今一度経済的な必要についてご協力をお願いしたいと思います。今回のリフォーム工事に 13 万米ドルかかります。現在まで、Congrégation メンバーの寄付により 3 万米ドルが自己資金として集まりました。

現地で引き続き寄付を募りますが、皆様のご支援なしには、目標額に達することが困難です。現在の計画のため、あと 10 万米ドル必要です。皆様のお気持ちが不可能を可能とさせていただきます。リフォームの特別献金は [こちら](http://reviveisrael.org/donate/) をクリックください。

## キリストに似た者

フランシス・フランジペイン(引用)

私たちはキリストに似た者となるように創造されました。イエスは変わることはありませんでしたし、神の教会に対する計画も変わりませんでした。私たちの変化により、「ついに、私たちがみな、信仰の一致と神の御子に関する知識の一致とに達し、完全におとなになって、キリストの満ち満ちた身にまで達する」ように、神さまのこころが燃やされるのです (エペソ 4:13)。

私たちの焦点はキリストに似るように変化を遂げることにあるべきです。このことこそが、父が最初からの目的であり、変わることはない終末のご計画であり続けるのです。(創世記 1:26-27、ローマ 8:29) パウロはキリストの満ち満ちた身に達することを求めた結果が、「私たちがもはや、子どもではなくて... 教えの風に吹き回されたり、波にもたあそばれたりすることがなく」(エペソ 4:14) ということなのです。真理の教義も間違った強調の仕方によっては、私たちを異端の教えへと迷わせます。

結果としてパウロは、キリストとの親密さは彼のこころの最も深い叫びなのだとして記しています。こう書いています「私は、キリストとその復活の力を知り、またキリストの苦しみにあずかることも知って、キリストの死と同じ状態になり」(ピレモン 3:10)。

彼は別にキリストの秘密の知識について語っているのではなく、みこころとの一致をもたらすところの親密さについてなのです。「私はキリストを知り...同じ状態になり」と書いているように、キリストを知ることとキリストに従うことが同じ意味を持っているのです。キリスト御自身こそが、その上に私たちの人生を築くための土台なのです。